

## キャリアか結婚か？ 女性が直面するトレードオフ

Bursztyn, L., Fujiwara, T., and Pallais, A. (2017) “Acting Wife: Marriage Market Incentives and Labor Market Investments.” *American Economic Review*, 107 (11), 3288-3319.

東京大学特任研究員 **室賀 貴穂**

はじめに

日本の管理職に占める女性比率は先進国中最低水準に位置するため (ILO 2015), 女性活躍推進が声高に叫ばれている。また, 東京大学の女子学生比率は2割程度と低く, 女子学生比率を高めるために様々な施策が講じられている (朝日新聞 2013)。なぜ, 女性は労働市場で結果を残したり, 学歴をつけることを避ける必要があるのか。この理由を, 労働市場での成功に関連する行動は結婚市場でのネガティブなシグナルになること, つまり, 労働市場での成功と結婚市場での成功にはトレードオフ関係があることを議論する先駆的な研究が本稿で紹介する Bursztyn, Fujiwara, and Pallais (2017) である。

Bursztyn, Fujiwara, and Pallais (2017) は, 米国の MBA 課程に在籍する学生を対象とし, フィールド実験を行った結果, 既婚女性と比較して独身女性は労働市場でのキャリア形成に役立つ行動を避ける傾向があることを突き止めた。潜在的な恋人候補になりうる同級生の男子学生からキャリア志向が強い女性と思われるためにこのような行動をとっていると論じている。本稿では, メインパートとサブパートから構成されるフィールド実験について, それぞれの枠組みと結果を順に紹介する。

### フィールド実験のメインパートの枠組み

MBA 課程の初日に開催される新入生向けキャリア相談会の際に, 学生はキャリア相談員によって配布される仕事の好みに関するアンケートに答えた。質問内容は, 学生の年齢, 性別, 婚姻の有無などの基礎的な事項に加え, 希望の職種, 希望する就業地, 希望報酬額, 希望労働時間, 1カ月あたりに希望する出張日数である。また, 学生に対してリーダーシップ能力と仕事における野心度合いを自己評価させ, その値も申告させた。これらの質問は, MBA の学生を採用する際

によく用いられるもので, 適性のある職種の判断材料にされる。このアンケートは, 大学側が集める学生のキャリアに関する初めての情報であり, 回収された情報がサマータウンシップの割り振りに使用されることがあらかじめ学生側に伝えられている。例えば, 「週4日以上出張したくない」と答えた学生はコンサルティング会社には配属されず, 「長時間働きたくない」と答えた学生は投資銀行には配属されない。そのため, 学生もアンケートの重要性を認識している。

アンケートの冒頭には, これから回答する質問に関する説明文が掲載されたが, Bursztyn, Fujiwara, and Pallais (2017) は2種類の説明文を用意し実験を試みた。「公開版」の説明文では, 「《あなたの》回答がキャリアに関する授業で議論される」と書かれていたが, 「非公開版」の説明文では, 「《匿名の》回答がキャリアに関する授業で議論される」と書かれていた。これらの2種類の説明文は, 《あなたの》と《匿名の》という一語以外全て同一であり, 学生には2種類の説明文があることが知らされていない。また, 学生がどちらの説明文を受け取るかは, 無作為に選別された。なお, どちらの説明文においても, キャリア相談員が学生の回答を見ることは記されていた。著者は, 「独身女性」と「既婚・婚約・同棲・真剣交際をしている女性で構成される独身女性以外のグループ (以下では, 「その他の女性」と示す)」に分け, 回答に差があるかを調査した。

### フィールド実験のメインパートの結果

非公開版の説明文を受け取ったグループは, 「独身女性」と「その他の女性」の間に回答の差は見られなかった。一方で, 公開版の説明文を受け取ったグループの「独身女性」は, 労働市場に求める希望を低く答えた。例えば, 報酬額については年間あたり1万8000ドル低く希望し, 1カ月あたりの出張日数は7日間少なくて希望し, 1週間あたりの労働時間は4時間少なくて希望し,

希望した。また、リーダーシップ能力と仕事における野心度合いについても、統計的に有意に低く申告した。つまり、「独身女性」はキャリア形成には役立つが結婚市場においてハンデになる行動は避ける傾向にあると言える。なお、このように、「公開版の説明文を受け取ったグループのみが労働市場に求める希望・リーダーシップ能力・仕事における野心度合いを低く答える」という傾向は、「その他の女性」と男性については観察されなかった。

さらに、男女間で回答の差を比較すると、非公開版の説明文を受け取ったグループでは、男性と女性の違いに回答に大きな差は見られなかった。女性は、男性に比べ、希望する報酬額は低かったが、出張日数・労働時間・リーダーシップ能力・仕事における野心度合いはほとんど同じだった。

#### フィールド実験のサブパートの枠組み

メインパートの実験が行われた3カ月後、キャリアに関する授業において、「独身女性」は、「他の学生が全員女性のグループ」と「他の学生が全員男性のグループ」の2つのグループに無作為に割り振られ、働き方の希望に関する質問に答えた。学生はこれらの質問に対して個別に回答したが、授業の最後に時間がある場合、他の学生と回答について議論する可能性があることが伝えられた。Bursztyn, Fujiwara, and Pallais (2017) は、「他の学生が全員女性のグループ」に割り振られた「独身女性」と「他の学生が全員男性のグループ」に割り振られた「独身女性」の回答を比較し、情報が他者に開示されるだけでなく、特に男性からどのように見られるかを気にして「独身女性」が行動を変える可能性について調査した。

#### フィールド実験のサブパートの結果

「他の学生が全員女性のグループ」に割り振られた「独身女性」のうち68%が、週に45～50時間の労働時間で低報酬な仕事より、週に55～60時間の労働時間だが高報酬な仕事を選択した。一方で、「他の学生が全員男性のグループ」に割り振られた「独身女性」は、週に55～60時間の労働時間だが高報酬な仕事を

希望する者の割合は、26%ポイント低かった。

同様に、「他の学生が全員女性のグループ」に割り振られた「独身女性」のうち79%が、出張はないが昇進が遅い・もしくは確実ではない仕事より、出張は多いが昇進が早い仕事を好んだ。一方で、「他の学生が全員男性のグループ」に割り振られた「独身女性」は、出張は多いが昇進が早い仕事を42%ポイント低く選んだ。

つまり、「独身女性」は、彼女たちの選択が男性に開示される時ほど、キャリア形成には役立つが結婚市場ではハンデとなる行動を避ける傾向にあることが明らかになった。

#### おわりに

Bursztyn, Fujiwara, and Pallais (2017) は、結婚市場での成功と労働市場でのキャリア形成にトレードオフがあり、独身女性が結婚市場での成功を意識する際、キャリア形成に役立つ行動を避ける傾向があることを突き止めた。彼らが議論している通り、「エリート大学に進学する」「有名企業に総合職として入社する」といった将来のキャリア形成に役立つ選択は、多くの女性が独身の若年時に行われる。そのため、結婚市場での成功を意識することが女性の労働市場での活躍を阻害している効果は計り知れない。また、本研究では、一般女性と比較してキャリア形成に重点をおくと考えられるMBA課程を専攻するエリート女性を対象としているが、統計的に有意な差が検証されたため、一般女性で同様の実験を行った場合、より大きな差が観察されることが予想される。

#### 参考文献

- 『朝日新聞』2013年9月2日朝刊8面「女子東大生、増えぬ受験生、社会の課題」（私の視点）。  
ILO (2015) *Women in Business and Management: Gaining Momentum*.

むろが きほ 東京大学大学院経済学研究科特任研究員。労働経済学専攻。最近の著作に「現代の労働市場と生活水準の変遷」『岩波講座・日本経済の歴史 第6巻 現代2 安定成長期から構造改革期 (1973-2010)』pp. 2-41 (共著, 岩波書店, 2018年)。労働経済学専攻。